

# 五峡の子

学校だより 2月号  
荒川区立第五峡田小学校  
校長 出井 玲子  
令和5年2月1日(水)  
TEL 3 8 9 2 - 9 5 1 5  
五峡小ホームページ

<http://www.aen.arakawa.tokyo.jp/DAI5HAKETA-E/>

【学校教育目標】 「かしこい子」 「やさしい子」 「たくましい子」

## 「学びに向かう力」を育てる学習 part2

校長 出井玲子



2月、暦上では春を迎えます。子供たちは、残り少なくなった今の学年や学級での時間を大切にしながら、4月の進級、進学に向けて準備に励んでいます。

本校では、昨年度から東京都の研究指定校として「学びに向かう力」の育成の研究を行っています。このことは、学校だより9月号でもご紹介しました。「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」と合わせて、学力の3番目の柱とされている「学びに向かう力」は、他の2つの柱に比べて取組が難しいとされています。そこで、本校では「教科の学習」と「他の教科や生活場面と関連をもたせる」(カリキュラム・マネジメント)ことで関心・意欲を高め、「学びに向かう力」の育成につなげようと考えました。

1月の5年生算数「割合をグラフに表して調べよう」の授業は、「よりよい五峡小にしよう」という共通テーマで進める委員会活動の取組と関連させました。それぞれの委員会活動の充実を図るためにアンケート調査を実施することにしました。ある算数の時間のグループ分けは、自ずと委員会毎になりました。例えば、代表委員会の子供たちは、各学年のあいさつの実態を調査するとし、質問項目は「いつも自分からあいさつする」「時々自分からあいさつする」などに決めました。調査結果を示すグラフや表の種類を何にするか、円グラフなのか棒グラフのかななどを考え、その根拠とともに調査結果を発表します。因みに、このグループは「合計100%になる調査なので円グラフが適している。」と考えました。そして、授業の最後は「グラフの結果から自分からあいさつをする人が1学期より2学期は増えたことが分かった。もっと、あいさつする人が増える学校にするために委員会の活動をどうしたらよいかを考えていく。」と分析し発表しました。学習内容を自分事にする中で、「算数の学習目標の達成」と、「よりよい五峡小にしたいという思いや願いの達成」を相乗的に叶える活発な学習活動となりました。

＝※＝

### 「学校評価アンケート」の結果より 【数値は肯定的な評価の割合(%)】

「児童生徒の様子」(明るく生き生き楽しい学校生活を送っている)は、昨年度との差はほとんどありませんが、「分かる授業」(分かる授業が展開されている)については、保護者の皆様の数値が5%程上がりました。上記「学びに向かう力」を育てる取組が、少しでも生きた結果であればと願います。今後も活動の充実とともに、活動状況の「見える化」を図って参ります。アンケートのご協力をありがとうございました。

